

2025年度第1回
「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会
2025年8月22日

危機言語調査における「挨拶表現」ドキュメンテーションの課題 ～沖永良部・宮古での経験をもとに～

岩崎典子（南山大学）

大野剛（アルバータ大学）

本発表

- 1 はじめに、発表者について、動機
- 2 定義
- 3 研究方法（従来と本発表）
- 4 ケーススタディ
- 5 継承のための記述
- 6 課題と留意点

発表者について

- **岩崎：**

応用言語学（言語教育、第二言語習得）の専門家。2023年より沖永良部島に訪問し、言語継承のための活動を行う。2024年2月より宮古語池間方言のコミュニティも数回訪問している。

- **大野：**

使用基盤言語学が専門で、日本語の文法・使用を日常会話の中で分析している。2006年から宮古島市の池間島・西原で言語調査を行っている。池間方言が少しでも残るような環境を作るため、現在共同プロジェクトを立ち上げようとしている。

本発表における「あいさつ」

- 甲斐（1985）と同様に、感謝表現なども含めて「挨拶表現」について考える

はじめに

- 「挨拶表現」「感謝表現」等のドキュメンテーションについて、特に言語復興のためのドキュメンテーションを念頭に考える
- 我々はごく最近あいさつ表現のドキュメンテーションに取り組み始めた
- 「挨拶表現」の研究は数多い（中西2015:80）
- 沖永良部・宮古（池間島、宮古島西原）での経験をもとに
- 幾つかの気づき（我々には発見！）－ 課題と留意点
- 何を記録するか？どう伝えるか、教えるか？
- 簡単な答えはない・皆さんと一緒に考えたい

動機：なぜ「あいさつ表現」なのか

- 言語復興のためには、言語能力の目標設定や評価のための基準が必要となる。岩崎・高（2024）は、ヨーロッパ言語共通参照枠を活用した、島のコミュニティのニーズに合う、Can-do statements（能力例示文）リストの作成を提言。
- あいさつは、言語学習の入門には欠かせない表現である。
- 高・岩崎（2025）で報告した沖永良部島のLINEスタンプ作成会においても参加者の多くが挨拶表現を表示したスタンプを作成していた。

言語復興のためにヨーロッパ言語共通参照枠

Common European Framework of Reference (CEFR)を参照

CEFR (Conversation) can-do statements	
A2	Can establish social contact: greetings and farewells ; introductions; giving thanks . Can generally understand clear, standard speech on familiar matters directed at him/her, provided he/she can ask for repetition or reformulation from time to time. Can participate in short conversations in routine contexts on topics of interest. Can express how he/she feels in simple terms, and express thanks .
A2	Can handle very short social exchanges but is rarely able to understand enough to keep conversation going of his/her own accord, though he/she can be made to understand if the speaker will take the trouble. Can use simple everyday polite forms of greeting and address . Can make and respond to invitations, suggestions and apologies.
A1	Can make an introduction and use basic greeting and leave-taking expressions . Can ask how people are and react to news. Can understand everyday expressions aimed at the satisfaction of simple needs of a concrete type, delivered directly to him/her in clear, slow and repeated speech by a sympathetic speaker.

Council of Europe (2001): 76

定義の問題：「あいさつ」とは（構造的）

- 「挨拶とは決まり文句であり、定型性の象徴ともいえる」（小林2017:078）
- 「あいさつ表現は定型化している場合が多いため、言語行動としての単位認定が比較的容易である」（西尾2017:76）

定義の問題：「定型性」とは

- 実質的意味を持たない

「おはよう。あ、もうはやくないか！」

- 形式が固定的で不可要素がつかない

「？とても、おはよう」

- 場面とことばの結びつきが密接

夜にはふつう「おはよう」とは言わない

(中西 2008:85)

定義の問題：「あいさつ」とは（機能的）

- 「沈黙の脅威を取り除く機能を持ち、仲間意識の必要性によって結び付けられた人々の人間関係の絆を確立する役割を果たす（Malinowski, 1923 中西訳； 中西 2005:71）
- 「会話という相互作用の開始部と終結部における連鎖的な構成の中において、人間関係を示しているところに価値がある」（Laver 1975, 1981; 中西訳； 中西 2005:71）

定義の問題：「あいさつ」とは（機能的）

- 人と人が出会ったときや別れるるときに、相互の存在や集団内の社会的関係を認め合ったり、新たに社会的関係を構築するために行われる表現活動」（加藤 2014:1-2）
- 「あいさつ言葉やあいさつ動作、さらに非定型の表現まで含め、あいさつ場面で交わされ、あいさつの機能を果たすものを「あいさつ」と捉え、それを「あいさつ表現」と捉える(中西 2015: 80):

従来の研究方法：

- 日本語共通語を前提とした聞き方をしてたために見えなかったことがあったのではないか。

- 国立国語研究所の『方言文法全国地図』（GAJ）

- 「おはようございますについての」質問文：

朝、近所の目上の人に道で出会ったとき、どんなあいさつをしますか。ふつう良く使う言い方を教えてください。（三井 2006）

- 「ありがとうについての」質問文：

人から物をもらって「ありがとう」とお礼を言うとき、どのように言いますか。（佐藤 2006: 72）

我々の調査：

- 主に聞き取り調査
- 従来の研究方法と類似していた質問もしていたが、様々な場面でどのような行為をとるのかなども聞き取っていた
- どのように継承するのかを念頭に考え、過去の経験も振り返ることで、実際の言語使用についてさまざまな気づきがあった

池間・西原の場合

「挨拶表現がない」とか「あまり言わない」とよく聞く

- 共通語のような言い方はしない・言い回し（定型表現）はないということか？（研究者と話者の想定・理解が違う？）

- 実際にはある

がんにゅーいー（元気ね？）

がんにゅーどー（元気よ）

- 新しい表現もつくれるようだ（80歳を超えた男性）

電話切る時に：がんにゅーさいつばんどー（元気一番よ！）

- あまり使わないことは事実かもしれない

話者間の人間関係

- 家族や同僚など親しい関係では言わない。また、その日に朝のあいさつを交した人に「こんにちは」は言わない。その日初めて会った疎遠な人に言うわけである（甲斐1985；中西 2005:72）
- 疎と感じる相手には親と感じる相手よりも、多数の要素を用いた表現で出合いの言語行動を行っている（中西 2005:77）
- 家族内で「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「ありがとう」が少ない？
 - 我々の家でも？

話者間の人間関係

- 山形県戸沢 “The wife usually says to the grandparents-in-law, OHAYO-GOZAIMAU. But the grandparents do not say it to each other.” (Ebata 2001:29)
- 静岡県豊岡 “If relatives happen to lodge in our house, we usually say greeting words to each other in the morning. In daily life, we do not use greetings in our house” (Ebata 2001:29)

すでいがほー・すでいがほー事件

- 「ありがとう」
- 最初に習う
- 定型化しているようだ（部分の意味がよくわからない）
- 我々も色々な場面で使おうと努力してきた
- 最近の大発見！
 - 実際はあんまり使わない
 - 昔もあんまり聞かなかった（70-90のおじい・おばあ）
 - 人が近いからか？

質問調査から現実場面へ

- 実際の場面でどう使われているか知る必要がある
むずかしい。。。長期的アプローチが必要
- 「現代の社会に適合した出会いのあいさつというものを同定するには、出会いの場面の言語行動の実態に目を向け、相手との関係・自分の置かれている状況といった様々な要素を精緻に拾い上げ、それら相互の関係を分析する必要がある」（中西 2005:71；小林 2017:080も参照）

言語間の関係

- 無意識にでてくる共通語環境 (Nakayama & Ono, 2013)
 - 共通語は外国語・フォーマルなことば (学校で習う)
 - 共通語環境を研究者の存在が自然に作り出してしまう
- 本物とみなされる (あまり使われていない古い) ことばを紹介されることが多いのではないかな？

例1 すでいがほうー・すでいがほー

例2 おー (はい)

- 方言がわかる高齢者のところに行きなさいとよく言われる

ドキュメンテーションの対象

- 「古くて使われなくなった言葉？

古典語？

図書館・博物館のための言語？

- 日常使われている、生きた言葉？

documentary linguistics (Himmelman 1998) におけるデータ

documentary linguistics のデータ (Himmelman 1998)

- The aim of a language documentation is ... to provide a comprehensive record of the linguistic practices characteristic of a given speech community (166)
- Linguistic behavior is manifest in communicative events. The term *communicative event* is intended to cover the whole range of linguistic behavior, from a single cry of pain or surprise to the most elaborate and lengthy ritual (168)
- the target of the documentation is not a sound event all by itself, but the sound event as part of a larger communicative setting that includes the location and posture of the communicating parties, gestures, artefacts present, etc. (168)

池間・西原における現実

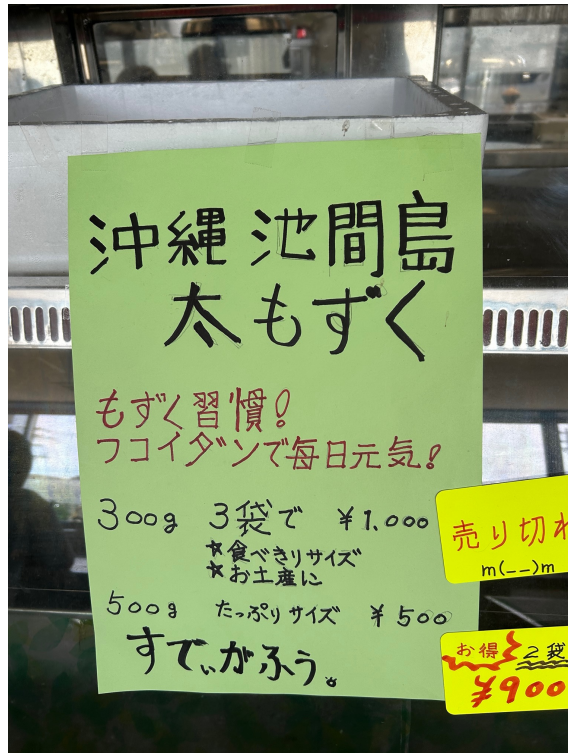
- 「池間と共通語が色々な形で混ざって使われている（Matsumori 1995, 杉田 2010, Miyahira & Petrucci 2014）」
- 色々な言葉を話す人が集まったときのあたりまえ前の状態
- どう混じるかの研究が必要
 - きっとパターンがある（Okamoto 2008）
- 現在の池間・西原における普通の感謝の表現は
「ありがとうございます」ではないか？（フォーマル）

池間・西原における現実

- 何をドキュメントしたいのか？
- 古典語？生きた言葉？



宮古の言語景観



沖永良部島の場合

- 『方言単語集～沖永良部～えらぶぬくとゥば』（永吉敏人（編） 2005: 9)
- 「沖永良部には、おはよう、こんにちは、こんばんわ、いただきます、ごちそうさま等々のあいさつ表現はない。あるのは、「うがみ やーぶら」という言い方のみである。これは、「拝ませてもらいます」との意で敬いのことばである。あいさつの言葉に代わるものとしては、出会った際に「どちらに行くのですか」、「今日は天気がいいですね」等々お互いに会話をかわすことである。

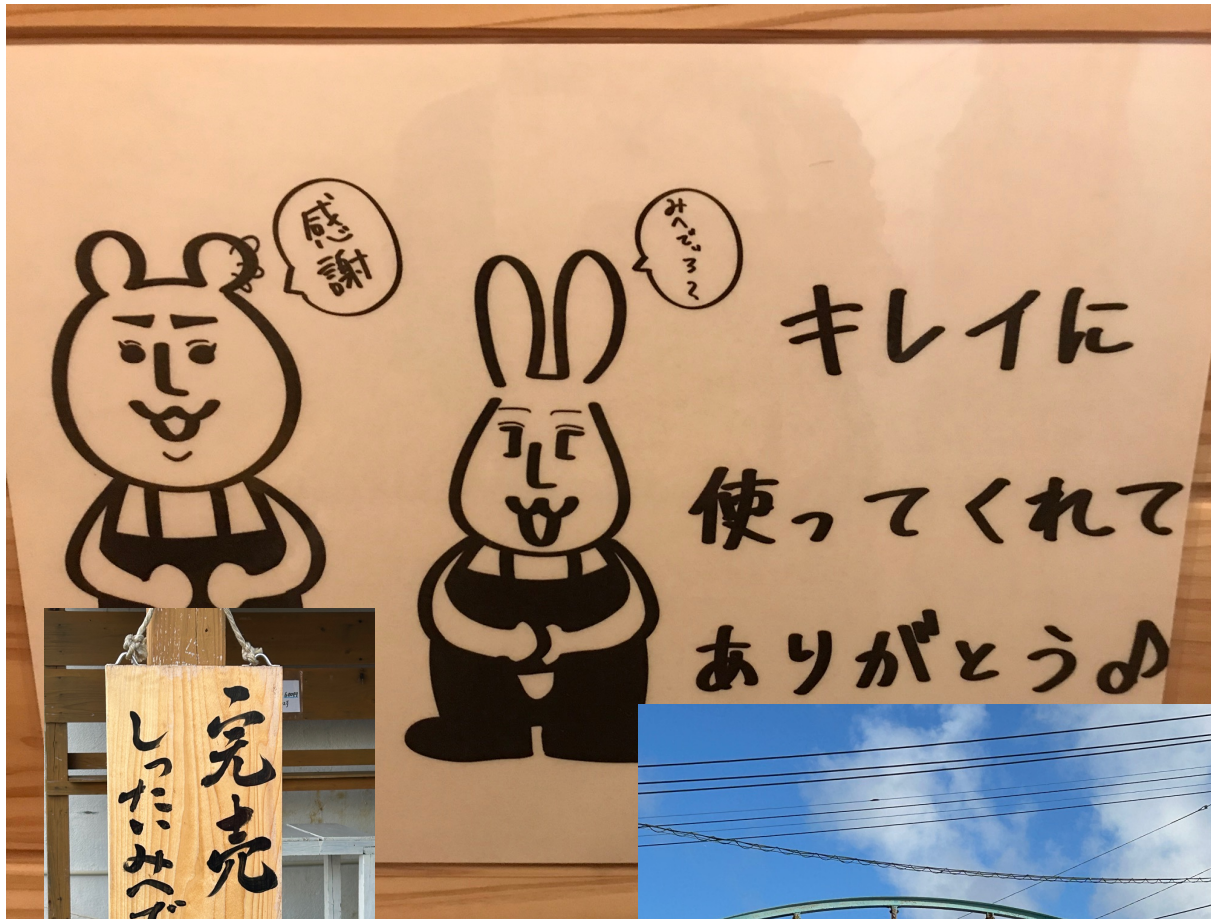
→協力者の方々も共通語のような定型表現はないという意味で「あいさつ」はない言われることが多い

沖永良部島の場合

- 横山（2022: 132）
- 「をうがみやぶらー」の対訳を「こんにちは」としつつも、島むにには、細かいあいさつ表現がないこと、「をうがみやぶらー」は、道で会った時には、「うだちよー？」（どこに行くの）があいさつの代わりになり、「をうがみやぶらー」は、人の家を訪ねる時や大勢の前であいさつする時に用いると注釈を付している。

沖永良部島における現実

- 言語復興に関心のあるコミュニティでは、近年「をうがみやぶらー」を「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」に意味合いで使われることがある。



どう記述するか、継承するのか

1. システムとしての言語の記述ではなく、実際の相互行為の記述をしていくことが望ましい (Himmelman 1998, ハインリッヒ・杉田 2009)

→しかしながら、話者数が少なく、年齢層によって話者数が限定的なコミュニティにおいて、談話や相互行為の記述がどの程度できるのか

- 2 単一言語社会観に基づく記述から多言語社会を念頭においた記述が求められるのではないか
- 3 子どもたちへの言語継承にあたって、共通語の用法も含んだ言語使用を取り入れてもいいのではないか

さいごに：課題と留意点

- 「挨拶表現がない」とは、共通語の言い方はしない、定型表現がない、あるいはあまり使わないという意味である可能性が高い
- 話者間・言語間（島のことばと共通語）の関係は要注意
- 自然会話・相互行為のチェックが必要か
- 何を記述したいのか考えることの重要性
- 言語継承のためには、共通語の影響が含まれた言語使用も奨励すべきではないか

• がんじゅーさいつばんどー！！

• きち もろてい しったい みへでいろどー！

参考文献 Ⅰ

- 岩崎典子・高智子（2024）「沖永良部語復興can-doリスト作成の試み～「島むにサロン」参加者とのブレインストーミングに基づいて」令和6年度 第1回「危機言語の保存と琉球諸語のプロソディー」合同研究発表会 2024年6月15日
- 甲斐睦朗（1985）「現代日本語のあいさつ言葉について」『国語国文学報』（愛知教育大学）42.
- 加藤久雄（2014）「挨拶」佐藤武義・前田富祺編集代表『日本語大辞典』 上 1 - 2 朝倉書店
- 高智子・岩崎典子（2025）「沖永良部島「しまむにLINEスタンプ作成会」の実践と成果報告」『琉球諸語の記述・保存研究』4 <https://doi.org/10.15084/0002000529>
- 小林隆（2017）「談話からみた挨拶の定型性 ―「おはよう」の地域差をめぐって」『方言の研究』3：077-100
- 佐藤亮一（2006）「『方言文法全国地図』第270図「ありがとう」」『言語』35(12): 72-75.
- 杉田優子（2010）「『実践としての言語』の記録保存：うちなーの多言語社会再生へ向けて」パトリック・ハインリッヒ・松尾慎（編）『東アジアにおける言語復興－中国・台湾・沖縄を焦点に－』三元社, 203-231頁.

参考文献 2

- 中西太郎 (2005) 「出会いの言語行動と親疎意識」 『言語科学論集』 9
- 中西太郎 (2008) 「あいさつ言葉の定型化をめぐって「おはよう」を事例とした定型化の検証」 『国語学研究』 47
- 中西太郎 (2015) 「言語行動の地理的・社会的研究 言語行動学的研究としてのあいさつ表現研究を例として」 『方言の研究』 1
- 西尾純二 2017. 「書評 小林 隆 (編) 2014『柳田方言学の現代的意義—あいさつ表現と方言形成論—』 ひつじ書房」 『社会言語科学』 19.2:75-77
- ハインリッヒ, パトリック・杉田優子 (2009) 「危機言語記録保存と言語復興の統合へ向けて」 『社会言語科学』 11(2): 15-27.
- 三井はるみ (2006) 「『方言文法全国地図』 第349図・350図「おはようございます、こんばんは」」 『言語』 35(12): 80-83.
- 横山晶子 (2022) 『ゼロから学べる島むに読本～琉球沖永良部島のことば』 ひつじ書房
- 永吉敏人 (編) (2005) 『方言単語集～沖永良部～えらぶぬくとゥば』 株式会社トモエ

参考文献 3

- Ebata, Yoshio. 2001. A geolinguistic study on the greeting expressions and behavior in Japan. *The Japanese Journal of Language in Society* 3.2: 27-38.
- Laver, J. 1975. Communicative functions of phatic communication. In A Kendon, R. M. Harris & M. R. Key (eds.), *The organization of behavior in face-to-face interaction*. The Hague : Mouton. 215-238.
- Laver, J. 1981. Linguistic routine and politeness in greeting and parting. In F. Coulmas (ed.), *Conversational routine*. The Hague:Mouton. 289-304.
- Malinowski, B. 1923. The problem of meaning in primitive languages. Supplement to C. K. Ogden & I. A. Richards, *The meaning of meaning*. London : Routledge and Kegan Paul. 146-152.
- Okamoto, Shigeko. 2008. Speech style and the use of regional (Yamaguchi) and Standard Japanese in conversations. In Kimberly Jones & Tsuyoshi Ono (eds.). *Style Shifting in Japanese*. Benjamins: 229-250.

参考文献 4

- Himmelmann, Nikolaus P. (1998) Documentary and descriptive linguistics. *Linguistics*. 36 (1): 161–195.
- Matsumori, Akiko (1995) Ryukyuan. Past, present, and future. In: John C. Maher & Kyoko Yashiro (eds.): *Multilingual Japan*, Clevedon: Multilingual Matters: 19–44.
- Petrucci, Peter R. & Katsuyuki Miyahira. (2015) Uchinaaguchi in the linguistic landscape of Heiwa Dōri and Makishi Market. In: Patrick Heinrich, Shinsho Miyara, & Michinori Shimoji (eds.) *Handbook of the Ryukyuan Languages : History, structure, and use*. De Gruyter Mouton: 553-574.
- Miyahira, Katsuyuki & Peter Petrucci. (2014) Interactional particles in Okinawan talk-in-interaction. In: Patrick Heinrich, & Mark Anderson (eds.), *Language crisis in the Ryukyus*. Cambridge Scholars Publisher.
- Nakayama, Toshihide & Tsuyoshi Ono. (2013) Having a shinshii/shiishii ‘master’ around makes you speak Japanese!: Inadvertent contextualization in gathering Ikema data. In: Elena Mihas, Bernard Perley, Gabriel Rei-Doval & Kathleen Wheatley (eds.) *Responses to language endangerment: In honor of Mickey Noonan*, 141-156. Benjamins.

謝辞

岩崎は、山田真寛氏（国立国語研究所）代表者の科学研究費からの助成をいただいて活動している。

「琉球沖永良部語を中心とした地域言語コミュニティ参加型の消滅危機言語復興研究」（20H01266）

「琉球沖永良部語を中心とした消滅危機言語の記録保存と継承保存を並行して進める研究」（24H00092）

横山晶子氏

沖永良部島と池間島の協力者の方々。